



平成 22 年 6 月 22 日

各 位

会 社 名 テクマトリックス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 由利 孝  
(コード：3762、東証第二部・JASDAQ)  
問合せ先 企 画 部 長 森脇 喜生  
(TEL. 03-5792-8601)

## 事業セグメント変更についてのお知らせ

当社は、平成 22 年 6 月 22 日開催の取締役会において、事業セグメントの変更を決議いたしましたので下記のとおりお知らせいたします。

### 1. 事業セグメント変更の理由

当社グループは現在、事業の種類別セグメント情報における事業区分については、「プロダクト・インテグレーション<sup>1</sup>事業」、「カスタムメイド・ソリューション<sup>2</sup>事業」、「パッケージ・ソリューション事業」の 3 つの事業区分としておりましたが、今連結会計年度から、「情報基盤事業」、「アプリケーション・サービス事業」の 2 つの事業区分に変更することが妥当と判断いたしました。

情報基盤事業につきましては、プロダクト・インテグレーション事業が従来から手がけている次世代ネットワーク、セキュリティ、ストレージ<sup>3</sup>等のコスト競争力のある堅牢で可用性の高い情報基盤技術の構築と導入、そして導入後の保守・運用・監視サービス等、システムのライフサイクル全てをカバーする情報基盤ソリューションの提供を行なっていきます。

アプリケーション・サービス事業につきましては、カスタムメイド・ソリューション事業とパッケージ・ソリューション事業を統合することといたしました。

これまで、カスタムメイド・ソリューション事業が手がけているソフトウェアの受託開発市場では、顧客のソフトウェア開発に対する考え方、そして投資の方向性に構造的な変革が起こっており、従来の延長線上での成長仮説が通用しない世界となりつつあります。また、これまで戦略的に育成を図っているパッケージ・ソリューション事業の展開加速を狙い、これらの事業を統合してそれぞれの補完関係をより一層強化し、パッケージ化、クラウド<sup>4</sup> (SaaS<sup>5</sup>) サービス化を強力に推進することが必要と判断をいたしました。同時に、これまでプロダクト・インテグレーション事業に含まれていたソフトウェア品質保証分野についても、ソフトウェア関連技術と位置づけ、

<sup>1</sup> インテグレーション：コンピュータシステムの導入に際し、業務上の問題点の洗い出しなどの業務分析から、システム設計、必要なハードウェア・ソフトウェアの選定、プログラム開発、システム構築までを一括したサービスとして提供すること。

<sup>2</sup> ソリューション：業務上の問題点や要求を構築したコンピュータシステムの処理により解決すること。

<sup>3</sup> ストレージ：コンピュータで処理に使うプログラムやデータを記憶する装置のこと。外部記憶装置。

<sup>4</sup> クラウド：クラウド（雲）はインターネットのことを意味する。従来はユーザがハードウェア、ソフトウェア、データを自分自身で保有、管理していたのに対して、これらをユーザが保有せずにインターネット経由で利用できるようにするサービス提供の形態。

<sup>5</sup> SaaS：ソフトウェアを販売するのではなく、ユーザが必要な機能をインターネット経由で利用できるようにしたサービス提供の形態。Software as a Service の略。

アプリケーション・サービス事業に統合いたしました。

これにより、医療、CRM、インターネットサービス、金融、ソフトウェア品質保証の対面市場向けに付加価値の高いソリューションを提供する事業としてアプリケーション・サービス事業に区分することといたしました。

この事業区分の変更は、従来の事業の種類別セグメントを市場構造の変化、技術の性質、今後の事業展開、経営資源の配分、経営管理体制の実態等の観点から見直し、事業の実体をよりの確に反映させるために行なったものであります。

## 2. 新事業セグメント

### 1) 情報基盤事業

独自の目利き力を活かし、北米を中心にニッチながらも、高い技術力、競争力、成長力をもつ製品やサービスを見極め、単なる製品販売にとどまらない高付加価値なフルラインのサービスをお届けします。

グリーン IT、仮想化<sup>6</sup>ソリューション、次世代ネットワーク、セキュリティ、ストレージ等、コスト競争力のある堅牢で可用性の高い情報基盤の構築をお手伝いします。加えて、企業向けシステム導入以降に必要な保守・運用・監視サービス等、システムのライフサイクル全てをカバーする IT サービスを提供します。

連結子会社であるクロス・ヘッド株式会社ならびに沖縄クロス・ヘッド株式会社においては、ネットワークやサーバ<sup>7</sup>の運用・監視及びネットワークエンジニアの派遣、エヌ・シー・エル・コミュニケーション株式会社においては、セキュリティ製品やストレージ製品の販売等を行います。

企業の IT システム投資の方向性が、設備の「所有」とサービスの「利用」と二極化しています。テクマトリックス・グループでは、一般企業向けに加えて、通信キャリアや大手の IT サービス事業者へ製品、サービスの提供を行なうことにより、「所有」する企業に対しては直接的に、「利用」する企業に対しては間接的に情報基盤ソリューションの提供を行なっています。

### 2) アプリケーション・サービス事業

特定のアプリケーション領域における豊富な業務ノウハウの蓄積を活かし、システム開発<sup>8</sup>、アプリケーション・パッケージ、クラウド (SaaS) サービス、テスト<sup>9</sup>・ソリューションなど様々なアプリケーション・サービスを提供します。

受動的に顧客の要望に応えるのではなく、競合他社と差別化するための IT を活用した業務改善・コスト削減提案を積極的に行なっています。エンドユーザとの直接的なコミュニケーションを通じて、業務分析、設計、ソフトウェア開発・構築、テスト、運用・保守のトータル・サービスを提供しています。

医療、CRM、インターネットサービス、金融、ソフトウェア品質保証の対面市場向けに付加価値の高いソリューションを提供しています。

<sup>6</sup> 仮想化：コンピュータシステムを構成する資源（サーバ、ストレージ、ソフトウェア等）に関する技術。複数から構成されるものを論理的に一つのもののように見せかけて利用できたり、その逆に、一つのものを論理的に複数に見せかけて利用できる技術。

<sup>7</sup> サーバ：クライアントコンピュータから入力されたデータに基づきプログラムが処理を行い、その結果を再びクライアントコンピュータに返す役割を果たすコンピュータのこと。サーバコンピュータ。

<sup>8</sup> システム開発：コンピュータシステムの設計、プログラミング、テスト等を行うこと。

<sup>9</sup> テスト：構築したシステムが設計どおりにプログラムされ、適切に機能するかどうかなどの確認を行うこと。

#### ① 医療

医療分野では、自社開発製品を中心として、医療機関向けに、さまざまな医用画像（CT、MRI、内視鏡、超音波、PETなど）の統合管理システムを提供しています。また、複数の放射線科専門医と共同出資で設立した連結子会社、合同会社医知悟では、遠隔読影診断のためのインフラの提供サービスを展開しています。

#### ② CRM

CRM(Customer Relationship Management)分野では、自社開発製品を中心として、企業の顧客サービス向上を支援するシステムを提供しています。電話、メール、インターネット等による「顧客との接触履歴」と「顧客の声」を一元管理しコンタクトセンター<sup>10</sup>運営を効率化するCRMシステムを始め、インターネットによる自己解決型の顧客サービス・システムや、顧客特性に応じた販売促進活動を支援するプロモーション支援システムの開発・販売を行なっています。これらのシステムは従来のオンプレミス<sup>11</sup>だけでなくクラウド (SaaS) によるサービス提供も行なっています。

#### ③ インターネットサービス

インターネットサービス分野では、主にウェブ系技術を活用したシステム開発を行っており、開発するシステムのカテゴリーは、一般業務系、基幹業務系に広がっています。お客様の経営戦略に応じた多種多様なシステムニーズを満たす為に、システム企画・立案におけるシステムコンサルティングや要件定義・設計から、システム標準化を実践する開発およびテスト、そしてセキュアで安定的なシステムの運用・保守サービスを提供いたします。株主である楽天株式会社は当該分野の顧客であり、同社の創業時よりショッピングモールのアプリケーション開発やデータベース開発等のシステム開発に関わっております。連結子会社である株式会社カサレアルはインターネットサービスに関連したシステム開発・利用技術教育を行なっています。

#### ④ 金融

金融分野では、金融デリバティブ商品や保有金融資産の時価評価、信用リスクなどを統合計量化するシステム等、金融工学の技術を駆使した様々なリスク管理システムの受託開発、自社開発製品の販売及び金融関連ソフトウェア製品の販売を行っています。

#### ⑤ ソフトウェア品質保証

ソフトウェア品質保証分野では、ソフトウェアの品質向上を目標に、ソフトウェア開発過程の全ライフサイクルを支援するベスト・オブ・ブリード<sup>12</sup>のツール及びエンジニアリングサービスを提供しています。情報家電、カーナビ、OA機器や携帯電話のソフトウェアのみならず、より高度な安全性実現を求めるコンプライアンスに対応する必要がある自動車、医療機器、ロボットなどのソフトウェア、金融システムのようなミッション・クリティカル<sup>13</sup>なソフトウェア等が対象となります。

以上

<sup>10</sup> コンタクトセンター：顧客からの問い合わせなどの電話対応業務を専門に扱う窓口・拠点。

<sup>11</sup> オンプレミス：情報システムを利用するにあたり、自社管理下にある設備に機材を設置し、ソフトウェアを配備・運用する形態のこと。

<sup>12</sup> ベスト・オブ・ブリード：同一メーカーのシリーズ製品を使うのではなく、メーカーが異なっても最良と思われる物を選択し、その組み合わせで利用すること。

<sup>13</sup> ミッション・クリティカル：24時間365日、止まらないことを要求されるコンピュータシステムのこと。